

令和5年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ハスモンヨトウ（ダイズ：No. 1、野菜：No. 1）

令和5年8月18日
鳥取県病害虫防除所

1 発生状況等

(1) ダイズ

8月第2半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの前世代成虫の誘殺数はやや多い～多く、今世代成虫の誘殺数もやや多い～多いと予想される（図1-1、図1-2）。

(2) ダイズほ場においては、白変葉の発生がみられており、今後、食害被害が増加すると予想される。

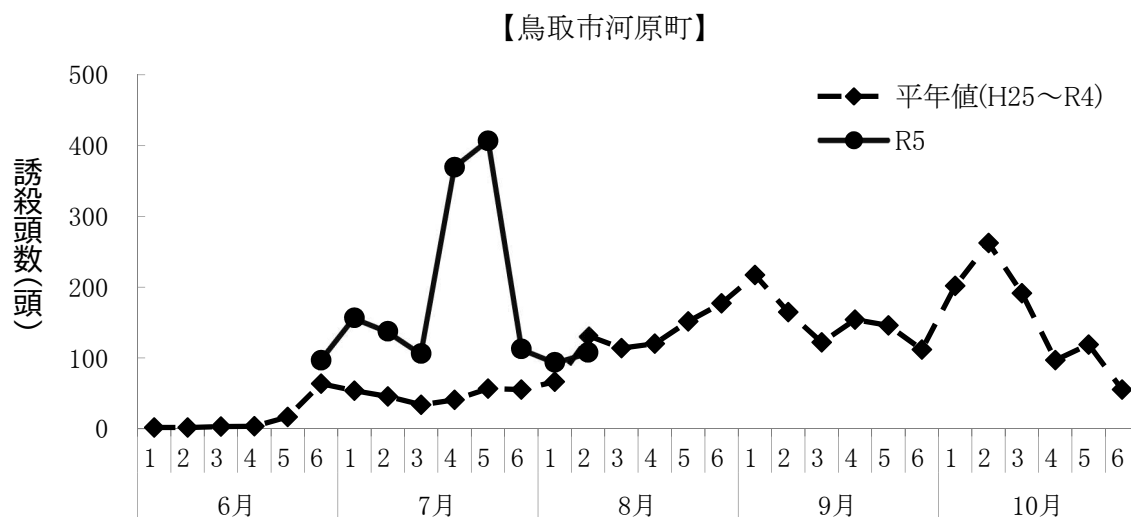


図1-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：鳥取市河原町）

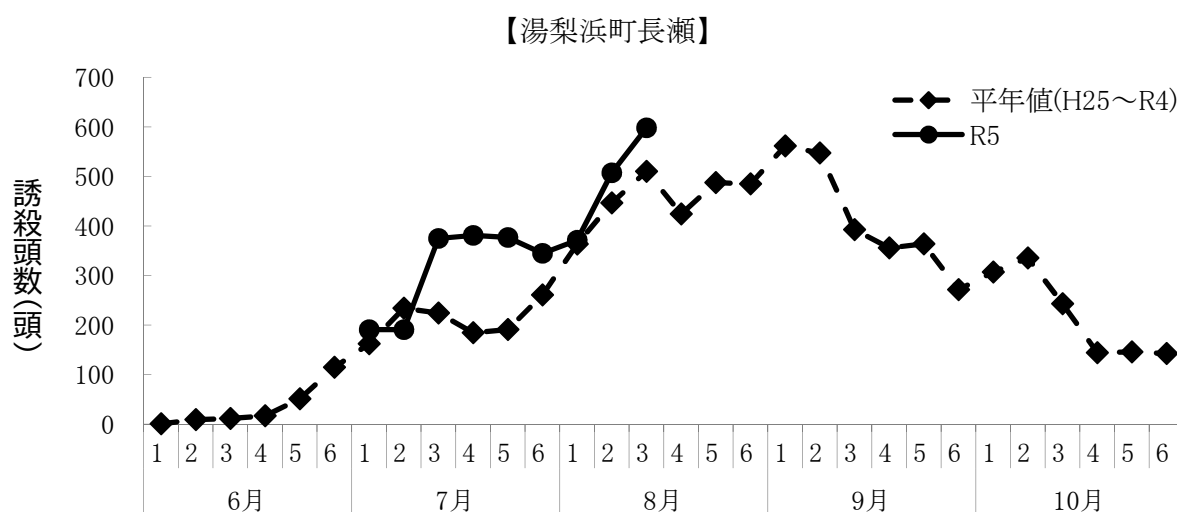


図1-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：湯梨浜町長瀬）

(2) 野菜

ア 7月のフェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は大山町、北栄町ともにやや多く推移し、8月第3半旬現在の誘殺数は、大山町、北栄町ともに平年並である(図2-1、2-2)。

イ ブロッコリーほ場(8月上旬定植)において、ハスモンヨトウの卵塊および若齢幼虫が確認されており、今後食害被害が増加すると予想される。

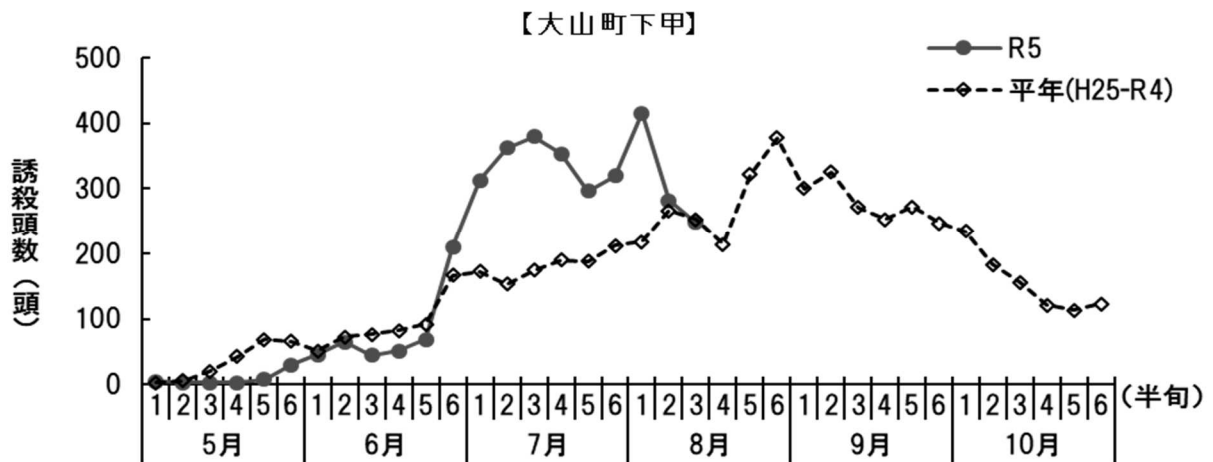


図2-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数(調査地点:大山町下甲)

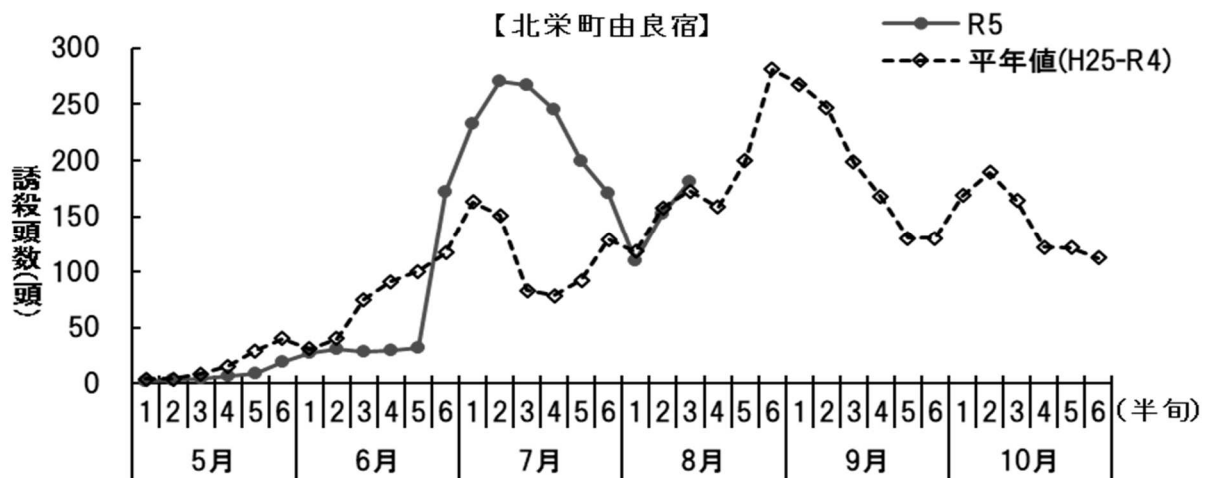


図2-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数(調査地点:北栄町由良宿)

2 防除上注意すべき事項

(1) ダイズ

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。白変葉の発生は、地域間差、ほ場間差が大きい。これまでにチョウ目害虫の食害を受けているほ場では、特に注意が必要である。

イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変か所数5か所以上とする。

ウ 若齢幼虫(体長1cm以下)に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失わないようにする。なお、既に中齢~老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

(2) 野 菜

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫期（体長 1 cm 以下）のうちに防除を行う。食害痕がみられ始める頃が防除適期である。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、更にかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕及び若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。